

テーマ別の検討3 ひとり親

1. 市民意向調査でみられた結果(自由回答を含む)

(1) ひとり親の子育て不安・負担の現状

他の世帯構成に比べて高い不安・負担

ひとり親家庭は、サンプル数は少ないものの、他の世帯構成に比べて「子育てに自信が持てない」、「子どもを嫌になることがある」、「たたいてしまう」などの子育て不安・負担をより多くの保護者が感じている。

子どもとの接し方、時間、自己実現ができない等の悩みが多い

悩みや気になることの内容では、ひとり親家庭において「子どもとの接し方に自信が持てない」、「子どもとの時間を十分にとれない」、「仕事や自分のやりたいことが十分できない」といった悩みが多く挙げられている。

替わって子育てを担ってくれる人がおらずひとりで育てなければならないために、子育ても自己実現もともに余裕がなく、また子どもとの接し方についても悩んでしまうことが少なくない状況がうかがえる。

自由回答においても、経済的、精神的、肉体的にさまざまにゆとりがないことを訴える意見がみられている。

(2) ひとり親家庭のサービス利用意向

他の世帯構成に比べて保育サービス等の利用意向が高い

ひとり親家庭では、他の世帯構成に比べてトワイライトステイ事業、ショートステイ事業、病後児保育、一時保育などの保育サービスや、産後ホームヘルパーなどの利用意向が高い。

(3) ひとり親家庭の経済的負担

児童扶養手当等の収入限度額の設定、支給額に関する不満

ひとり親家庭に対する様々な手当・助成制度等の収入限度額の設定が低すぎることで、また支給額が少ないことへの不満がみられた。

自由回答でみられた意見(件数が少ないため、(1)～(3)に関わるものをまとめて原文のまま掲載)

ひとり親家庭に対する税金・医療など助成制度や福祉制度はあるが、収入限度額の設定が高くなりつつあり、どの制度も受けることができない。ある程度の収入はあっても、二人で収入のある家庭とは違い、扶養家族を二人(一人は老人)を抱えての家の維持には厳しいものがある。もう少し収入限度額について検討してほしい。

一時保育の保育料を下げしてほしい。また、母子家庭割引制度みたいなのがほしい。

母子家庭ですが、仕事をするために保育園に預けたいのに、現在働いている家庭が入園できて、母子家庭が入園できないのはおかしい。もっと入園人数を増やすとか、保育園自体を新しく作っても良いと思います。

母子家庭になり、いろいろな制度を利用させていただいています。今は生活保護を受けながら、子どもと2人でアパート住まいです。2人きりなので困ることはたくさんあります。実母(私の)は、病気なので気軽には子どものことは頼めず、近所に頼める場所がないことが1番の悩みです。これから小学校、不安です。仕事をパートで探しているので、今の状況ですと正社員で、なんてとても無理です。生保なので生活にゆとりはなく、精神的に苦しくなることもあります。もう少しゆとりがもてるようになりたいです。育児も生活も、ゆとりがほしいです。今年で生保生活4年目になります。仕事もお給料のことだけ重視すると、子どもの面倒がみれないし、子どものこと中心で見つけるので、どうしても生保を止めることはできません。早くゆとりの持てる仕事・生活・育児をしたいです。

早くゆとりの持てる仕事・生活・育児をしたいです。

私は母子家庭で仕事は日、休日しか休みがありません。自分の稼ぎが生計を立てるし、会社に迷惑をかけず、信頼を失わないように、職を失うことのないように必死です。子どもにできる限り不自由なく生活をさせてあげたいと思っています。どの家庭も一緒だと思います。暇が少ないため、毎日の生活に追われることも当たり前です。もう少し考慮があってもいいのではないのでしょうか。保育所や幼稚園に通うのは大人ではなく子どもです。子どものことを書類だけで判断することや、責任をもう少し重く考えてほしいです。余裕のある人達ばかりではないし、毎日生活し、税金も払っているわけです。親だけの判断ではなく、子どもちゃんと意志を持っているのです。し、子どものこと中心で見つけるので、どうしても生保を止めることはできません。早くゆとりの持てる仕事・生活・育児をしたいです。

2. 施策・事業の現況と課題

(1) ひとり親家庭の相談体制

母子自立支援員が、母子家庭の様々な問題について相談に応じ、自立に必要な情報提供や援助を行っている。

今後は、特に母子家庭等の自立支援のための就業相談等の機能を充実する必要がある。

また親同士が知り合い、仲間づくりができるような機会の提供も必要である。

事業	事業の内容・実績 (目標は福祉計画掲載のもの)	課題等	今後の方向性 (21年度まで)
● 母子自立支援のための相談	様々な問題について相談に応じ、自立に必要な情報提供や援助を行う	● 特になし	● 現状維持

(2) ひとり親家庭の日常生活への支援

ひとり親家庭の日常生活への支援として、ホームヘルプサービス事業を実施している。

事業	事業の内容・実績 (目標は福祉計画掲載のもの)	課題等	今後の方向性 (21年度まで)
● ひとり親ホームヘルプサービス	ひとり親になって2年以内、小学校低学年以下の児童がいる、親や子供の急な病気、その他生活を営むのに著しく支障があるひとり親家庭に対して、一定の期間ホームヘルパーを自宅に派遣し、家事や育児等の援助等の日常生活に必要なサービスを行う(所得により利用者負担あり) (現況) 延1,636回(16年度見込)	● 特になし	● 現状維持

(3) ひとり親家庭の自立・就業支援

(4)ひとり親家庭の経済的負担の軽減

ひとり親家庭の経済的負担の軽減として、児童育成手当、児童扶養手当等を支給しており、その充実を国と東京都に要請する方向で施策を展開している。

離婚・未婚を理由としての手当受給対象者数が増加しており、ひとり親家庭への支援施策が単なる手当等の経済支援のみならず、ひとり親家庭の自立を総合的に支援することが急務となっている。

事業	事業の内容・実績 (目標は福祉計画掲載のもの)	課題等	今後の方向性 (21年度まで)
● 児童育成手当	死別・離婚等により父または母がいない18歳年度末までの児童を養育している保護者(育成手当13,500円/月)、又は20歳未満で一定以上の障害のある児童を養育している保護者(障害手当15,500円/月)に対し手当を支給	● 特になし	● 現状維持
● 児童扶養手当	死別・離婚等により父と生計を同じくしていない18歳年度末までの児童(20歳未満で中度以上の障害のある児童を含む)を養育している保護者に対し、児童が育成される家庭生活の安定と自立の促進に寄与するために手当(全部支給41,880円等/月)を支給	● 特になし	● 現状維持
● 医療助成	18歳年度末までの児童(20歳未満で中度以上の障害のある児童を含む)を養育しているひとり親家庭等に対し、健康保険診療の医療費の一部を助成する。所得制限は国の児童扶養手当に準拠し、課税世帯は1割分の自己負担がある。	● 特になし	● 現状維持
● 健康診査費助成	20歳以上の国民健康保険または政府管掌保険の加入者で、児童扶養手当・児童育成手当・遺族基礎年金・母子(準母子)年金のいずれかを受給しているひとり親家庭等の保護者が、市民医療センターで総合健康診査を受けた場合、その診査料の一部を助成する。助成額はAコース:5,500円(国保・非課税 1,600円), Bコース:3,000円(国保・非課税 1,100円)	● 特になし	● 現状維持
● 休養ホーム利用交通費助成	児童扶養手当・児童育成手当・遺族基礎年金・母子(準母子)年金いずれかの受給者で、東京都ひとり親家庭休養ホーム事業指定施設を利用するひとり親家庭に対し、交通費を助成する。助成限度額は、大人 9,000円、小人 4,500円	● 特になし	● 現状維持